附属中学校・高等学校の紹介

中央大学の附属学校は高等学校が4校。中学校が2校。
各校より今年行われた行事やトピックスを中心にレポートします。

中央大学高等学校

本校では2年生を対象にした「キャリア講座」を開講しています。本講座は、「志」ある人物の育成のため、全員受講の「基礎」と希望者による「実践」の2部構成となっています。今年の「実践」は50名以上の生徒が5回にわたって自分と社会の関わりについて考えながら「志」を立ててゆくものです。5～6名の班に分かれ、企業・研究機構の有志の方々のファシリテートにより、討論を重ねながら、まとめ上げていきます。

その成果は、3学期の終業式において生徒の前で発表し、その後、ファシリテーターからの講評と振り返りの会を開きます。大変好評な証拠として、社会人になってからファシリテーターとして参加してくれる卒業生も多く、「キャリア形成」につながっている実感を得ています。

※本講座の理論と実践をまとめた本『未来を生き抜く力を育むキャリア教育』（学事出版）を出版しています。

キャリア講座風景

中央大学
高等学校

中央大学附属中学校・高等学校

本校では、台湾の新北市立海山高級中学校やベトナム・ハノイの日本国際学校と交流協定を締結し、生徒の相互訪問を実施しています。また中学3年生では、イギリスのAnglo European Schoolやオーストラリアのアデレードでの現地校訪問の機会があり、高校ではイギリスのボーンマスでの短期語学研修、ニュージーランドで3か月間過ごすターム留学、留学中の取得単位を卒業単位と認める単位認定留学などが用意されています。高校2年生では、教養総合という授業の中で、フィールドワークとして、カナダでのオーロラ観測、ボルネオ島でのジャングル探索、クメール遺跡群文化探訪といった研究旅行が実施されています。最近では自発的に世界を目指す生徒も増え、今年は「トビタテ！留学JAPAN」に5名の生徒が採用されました。訪問国はアメリカ、フィリピン、ドイツ、UAE、イギリスとバラエティに富み、いずれも鋭い問題意識をもって現地社会に切り込んでいきます。こうして背景の異なる歴史、文化に触れ、生活習慣の違いを理解することで、国際的視野を備えた生徒が育つことを目指しています。

「トビタテ！留学JAPAN」に採用された生徒たち

中央大学附属
中学校・
高等学校

中央大学杉並高等学校

本校は、昨年度に引き続き「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール※）」の実施校に採択されました。（本年度は補助金500万円）。

昨年度は各種センサーや高性能パソコン、3Dプリンターを導入。今年度は教育用ドローンやレーザーカッターをすでに整備し、さらにUVプリンターの購入も検討しています。これらの機材を生徒が自由に使えるようにすることで、「デジタルを活用したものづくり」（デジタルファブリケーション）を実現できるようになりました。まずはキーホルダーなどの簡単なものから始め、将来的には理数探究で使う実験装置も自らの手で作成できるようになることを目指しています。

現在取り組んでいる研究例の一つに、プロジェクションマッピングを完成させるプロジェクトがあります。3Dプリンターでお城の模型を造形し、高性能パソコンで作成した映像を重ね合わせることでプロジェクションマッピングの実現を目指しています。

理数探究に取り組む生徒とアシスタントの卒業生

中央大学
杉並高等学校

中央大学附属横浜中学校・高等学校

今年度、本校は「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール※）」の実施校に採択されました。これにより、時代の要請に応じたICTを活用した学びを一層強化することができます。

本校は、この支援を活用し、高性能なICT機器の導入など教育環境の充実を目指します。プログラミング、データサイエンス、AI活用といったデジタルリテラシー習得を前進させることはもちろん、文理の枠を超えた文理横断的な学びや、自ら課題を設定し解決に導く探究的な学びの可能性が大きく広がります。

探究的な学びを通じて、単なる知識の習得に留めず、幅広い知的素養をもとに、課題解決に向けて行動できる人材の育成につながると考えています。卒業生が将来、多様な分野で、変化する社会に貢献できる人材として活躍してくれることを期待しています。

情報の授業風景

中央大学附属
横浜中学校・
高等学校

※DXハイスクールとは、文部科学省が推進する、未来のデジタル社会を支えるプロジェクトで、情報や数学などの教育を強化し、大学等との連携を通じ、ICTを活用した探究的・実践的な学びを実現するための環境整備を支援するものです。